1470

1480

149

全国の動き

1467

応仁の乱(～1477)
戦国時代の幕開け

1478

11月　斎藤妙椿が尾張の織田敏定を攻撃

1480

2月　斎藤妙椿が死去
8月　斎藤利国(特是院妙純)と同利藤の間で合戦が始まる(文明美濃の乱)
11月　利国が勝利し、利藤は没落

1487

9月　将軍足利義尚が近江親征

1491

8月 将軍足利義材が近江親征

応仁　**文明**　**長享**　**延徳**

この地方の動き

1473

大井城・荻島城が落城

10月 東軍の信濃小笠原氏・木曽氏が東美濃に出兵し、大井城・荻島城を落城させる(「小笠原文書」)

1482

6月　幕府、遠山荘内にある東山山荘(銀閣寺)造営のため用材を速やかに輸送するよう求める(「蜷川家文書」)

1483

6月　大井郷千旦林の普門院に鰐口が寄進される(長野県朝日村熱田神社鰐口銘)

1486

5月　遠山加藤左衛門尉が幕府使節として飛騨国へ出兵(「小笠原文書」)

1487

9月　将軍足利義尚の近江親征に奉公衆遠山一族が従軍

1491

8月 将軍足利義材の近江親征に奉公衆遠山一族が従軍

0

1493

明応の政変・伊勢宗瑞の伊豆討入

2月　将軍足利義材が河内親征

4月　管領細川政元が足利義材を逐い、新将軍に義澄を擁立（明応の政変）

1495

2月　美濃国で斎藤妙純と石丸利光の間で船田合戦が始まる

7月　石丸利光が敗れ近江へ逃れる

1496

5月　石丸利光が土岐元頼を擁立して美濃に入国し、斎藤妙純と戦うが敗れて自害する(城田寺合戦)

12月　近江に出兵した斎藤妙純の軍が一揆に襲撃され、妙純以下の主立った部将70人以上が討ち死にする

1500

1507

6月　管領細川政元が暗殺される

1510

1512

8月　美濃国で斎藤彦四郎が謀反を起こし墨俣城に籠城するが、守護方に攻められ尾張へ没落

1515

9月　美濃守護土岐政房が守護代斎藤利綱など被官人数十人を殺害

明応　**文亀**　**永正**

1493

2月　将軍足利義材の河内親征に奉公衆遠山一族が従軍

1496

5月　城田寺合戦（岐阜市）で土岐小里氏が自害（『船田戦記』）

1502

4月　土岐明智頼尚が嫡子頼典を義絶し、所領妻木郷を子の彦九郎に譲る（「土岐文書」）

1505

11月　土岐明智彦九郎が妻木八幡神社社殿の屋根を葺き替える（妻木八幡神社棟札）

1508

5月　足利義稙（義材）が土岐明智彦九郎に参陣を求める（「土岐文書」）

11月　遠山頼景が岩村八幡神社を造営する（岩村八幡神社棟札）

1511

足利義稙が遠山明智景保の所領を安堵する（「遠山文書」）

1515

7月　土岐明智彦九郎が将軍に太刀を進上（「土岐文書」）

1517

12月　美濃守護土岐政房と守護代斎藤利良の間で合戦が始まる

1518

7月　利良が敗れ、土岐頼武（政房の子）とともに越前に逃れる。代わって斎藤彦四郎が尾張から帰国

1519

6月　美濃守護土岐政房死去

9月　土岐頼武・斎藤利良が越前から帰国。合戦に勝利し、頼武が守護となる

1520

1525

6月　美濃守護土岐頼武・守護代斎藤利良と長井一類の間で合戦が始まる

8月　斎藤利良が敗死

年末　このころ戦いが終息、土岐頼芸が守護となり、長井氏が実権を握る

1526 6月

斎藤道三の父
長井新左衛門尉が登場

1530

1533 6月

斎藤道三が登場

1535

7月　長良川大洪水(枝広木)。土岐頼芸の枝広館も被災

8月　美濃国で反道三派が前守護土岐頼武の子 次郎を擁立して蜂起し、大規模な内乱となる

1537

この年　美濃国の内乱が終息に向かう

大永　**享禄**　**天文**

1524

7月　岩村城下で合議があり城主遠山某が討死
（内閣文庫本「明叔録」）

1532

このころ小里光忠が
小里の領主に（『小里家譜』）

1533

5月　醍醐寺の高僧厳助が文永寺(飯田市)本堂の落慶法要のため下向。後の黒瀬街道を通り、蛭川、向田瀬、坂下(いずれも中津川市)に泊まる
(『天文二年信州下向記』)

10月　厳助が帰洛。平谷から木曽川の大井戸渡までは「上村地頭久志原」（遠山串原氏）の手配により、上村、佐々良木（いずれも恵那市)和泉に泊まる(『天文二年信州下向記』)

1534

6月　明叔慶浚が岩村の遠山景前に招かれ、岩村大円寺に入寺
このときの法語が「霧ヶ城」の初見
(愚渓寺本『明叔録』)

1538

この頃　大井武並神社で梵鐘が鋳造される
(現存せず)(『厳邑府誌』)

3月　飛騨の三木直頼が禅昌寺に、烏根(金山城)の斎藤大納言の活躍を報じる。金山城の初見(「禅昌寺文書」)

閏6月　遠山苗木昌利の夫人が死去(禅昌寺本『明叔録』)

1540

1540

8月　三木氏が加茂郡へ出兵し、米田嶋城(七宗町)、 野上城(八百津町)などを攻める

1543

この年　美濃守護所大桑城で合戦

1544

9月　土岐次郎が朝倉氏や織田信秀の合力を得て斎藤道三を攻めるが、井口の戦いで道三に敗れ、撤退する

1546

この年　土岐次郎が美濃国に帰国

1547

11月 土岐次郎死去

1550

1550

この年 斎藤道三が美濃守護土岐頼芸を追放する

1552

3月　織田信秀が病没し、信長が跡を継ぐ

1554

9月　武田信玄が下伊那へ侵攻

この月、抵抗する知久氏が籠る神之峰城が落城し、下伊那全域を領国とする

この年　武田信玄が木曽義昌を従属させる

1540

この頃、妻木郷の領主が土岐明智氏から妻木氏に交替

9月　遠山景前が下呂温泉で湯治(『禅昌寺文書』)

景前と三木直頼が加茂郡東部（白川町、東白川村）の分割、土岐久々利氏への合力の可否を協議(『禅昌寺文書』)

1541

8月　妻木広美が妻木八幡神社の社殿の屋根を葺き替える（妻木八幡神社棟札）

この頃　斎藤大納言が可児の中村口・羽崎口で合戦（「金沢市立図書館所蔵文書」）

1542

11月　延友景延が笠木大権現(笠置神社・恵那市中野方町)に梵鐘を寄進（「名森村史」）

1544

この年　妻木の籠橋雅楽助が定光寺（瀬戸市）に米を寄進（『定光寺祠堂帳』）

1547

7月　遠山景前が大樹寺(岡崎市)宝樹院に下地を寄進(「大樹寺文書」)

閏7月　大円寺の明叔慶浚が伊那の人に書状を送り、府君(小笠原氏か)の求めにより開善寺・大雄寺の住持人選に努力していることを伝えるとともに、遠山・知久・坂西の和議を進めることを求める(禅昌寺本『明叔録』)

11月　遠山景前が岩村八幡神社の社殿を造営(岩村八幡神社棟札)

この頃　遠山景任が織田信秀の妹と結婚か

1550

5月　醍醐寺の高僧厳助が伊那の文永寺に向かう途中、大井に泊まる(「醍醐寺文書」)

1551

2月　定林寺(土岐市)住持の東嶺智旺が、鎌倉旅行の準備を「明民城」(明知民部の城・明知城)で調える(禅昌寺本『明叔録』)。この後、智旺は4月に小田原で北条氏康、遠山綱景と対面し、鎌倉で五山諸寺を訪ねている

1552

この春　苗木武景（景前の次子)が京都からの帰国の途中、伊勢湾で海賊に殺害される(禅昌寺本『明叔録』)

1553

5月　伊勢外宮が遠山氏・斎藤道三・北条氏康・武田晴信・今川義元・朝倉義景・尼子晴久に遷宮要脚の納入を求める（「外宮天文引付」）

1554

この冬　武田晴信が下伊那を領国化してほどなく遠山氏など東美濃の国衆が晴信に従属

1555 10月
厳島の合戦

1556 4月
長良川の合戦

斎藤道三が子の義龍に敗死

1560

1560 5月
桶狭間の合戦

1561

5月　斎藤義龍が死去し、龍興が跡を継ぐ

1563

この年 織田信長が小牧山城に移り、美濃攻めが本格化

1564

2月　安藤伊賀守・竹中半兵衛ら斎藤龍興を逐って稲葉山城を占拠

10月 この頃、斎藤龍興が稲葉山城を回復

1565

8月　信長が美濃国加茂郡、可児郡を制圧する

この年　武田勢と織田勢が東美濃で衝突
これを機に両者は同盟を結び、その証として武田勝頼と織田信長の養女(遠山直廉の娘で信長の姪)との婚姻が成立

1566

閏8月　斎藤氏が武田との同盟を模索

1567 8月
稲葉山城が落城

1568

12月　武田信玄が今川氏真との同盟を破棄し駿河へ侵攻

弘治

永禄

1555
岩村衆が小渡・明知で合戦

9月　これより前、岩村衆が反今川派の三河国衆鱸兵庫助の小渡城普請に合力。この月、今川派の阿摺衆と合戦となり、明知まで攻め込まれる敗北を喫する。木曽義康が晴信の命令で高森(苗木城)を守る(「諸家文書写」)

1556

正月 これより前、武田晴信が遠山景前の求めに応じ、岩村に兵を送る(禅昌寺本『明叔録』)

7月　遠山景前が死去し景任が跡を継ぐ。大井武並神社本殿の造営が中断(大井武並神社本殿墨書)

9月　一本木善四郎(伊那の土豪か)が東濃高山(土岐市)で戦死(『開善寺過去帳』)

1558
岩村衆が名倉舟渡橋で合戦

5月　岩村衆が名倉舟渡橋(愛知県設楽町)で奥平貞勝らと戦う(『御家譜編年叢林』他)

1559

5月　妻木広忠が妻木八幡神社の社殿の屋根を葺き替える(妻木八幡神社棟札)

1561

10月 武田信玄が遠山三郎兵衛入道に関東へ出陣することを伝え、岩村家中を堅固に保つよう求める (「塩原加久吉氏所蔵文書」)

1564

3月　遠山景任、大井武並神社本殿(国重要文化財)を造営(「市川家文書」)

6月　金山の長井隼人が武田信玄に井口(岐阜)の竹中・安藤勢が金山を攻撃しようとしていることを報じ、信玄は加勢・兵粮米の支援を約束する(「長井家文書」]。金山の情勢を受け、信玄が遠山景任・直廉に対し、武田の飛騨出兵への苗木勢の出陣延期を認めるとともに鉄砲50人の派兵を求める(「尊經閣文庫所蔵文書」)

7月　信玄が直廉に対し、飛騨へ飯富三郎兵衛(山県昌景)が入ったことを報じ、至急派兵するよう求める (苗木遠山史料館所蔵文書)

1565
神篦口の合戦

この年　織田の部将森可成と肥田玄蕃が武田勢と神篦口(瑞浪市)で衝突(『信長公記』)

1月　延友信光が神篦諏訪神社(瑞浪市)社殿を造営(諏訪神社棟札)

4月　長井隼人が顔戸八幡神社(御嵩町)社殿の屋根を葺き替える(顔戸八幡神社棟札)
武田信玄が遠山右京亮の神篦城での戦功を賞する(「反町文書」)

8月　小里氏が武田から離反。これを受けて武田信玄が遠山景任・直廉に対し、自重を求める(「神宮文庫所蔵文書」)
織田勢が美濃へ出兵し金山城を落城させる(「歴代古案」)

12月 信長が津島神社御師が遠山領に入ることを認める(『増訂織田信長文書の研究』)

この頃　武田勝頼と織田信長の養女(遠山直廉の娘で信長の姪)との婚姻が成立

1568

12月 武田氏の駿河侵攻に遠山氏が兵を送る(「上杉文書」)

1569

6月　遠山直廉が広恵寺(中津川市)に禁制を掲げる

1570

1571

9月　信長が比叡山を焼き討ち

1572

10月 武田信玄が徳川領への侵攻を開始

1572 12月

三方ヶ原の合戦

1573

4月　武田信玄が死去

元亀

1570

9月　志賀の陣の部将の中に「苗木久兵衛」(『信長公記』)

1571

9月　武田勝頼室(遠山直廉の娘)死去。法名龍勝院殿

この年 妻木善左衛門の子が定光寺に米を寄進(『定光寺祠堂帳』)

1572

上村合戦

5月　苗木の遠山直廉が、威徳寺合戦で三木氏を攻めたときの失傷がもとで病死

8月　岩村の遠山景任が病死

10月 織田信長が岩村衆の調略に成功し、岩村城に織田信広、河尻秀隆を入れる
信長の四男御坊丸の岩村入城もこのときか(「歴代古案」)

11月 岩村城が単独で武田に帰属する(「徳川美術館所蔵文書」他)

同月 信長が延友佐渡守に日吉郷・釜戸本郷(いずれも瑞浪市)を扶助する(「讃岐遠山文書」)

12月 織田方の東美濃衆が岩村城を攻撃しようとしたが、上村(恵那市上矢作町)で武田勢と合戦となり、主将明知景行をはじめ、小里光次など主だった部将が戦死する大敗を喫する(上村合戦)

天正

1573

9月　織田信重(信忠)が延友佐渡守に日吉郷・釜戸本郷(いずれも瑞浪市)の知行を安堵(「讃岐遠山文書」)

1574

明知城の戦い(十八砦の落城)

1月　武田勝頼が岩村城へ進出し、明知城、串原城、阿寺城を攻める(『信長公記』)

2月　明知城などが落城。織田信長は後詰に出陣するが間に合わず、神篦城に河尻秀隆、小里誠に池田恒興を置き、両城の普請を命じて岐阜へ戻る(『信長公記』)

7月　織田信長が河尻秀隆に対し、長島一向一揆攻めの戦況を報じるとともに、小里の監視と神篦城普請に努めることを求める(「阿子田文書」)。同日、信忠も延友佐渡守に長島の戦況を報じ、岩村監視の労をねぎらう(「徳川美術館所蔵文書」)

1580

1575 5月
長篠の合戦

1580
閏3月　本願寺の顕如が信長に降伏

1582 6月
本能寺の変

2月　織田信忠が伊那に出陣し、武田攻めが始まる

3月　武田勝頼滅亡

6月　山崎の合戦。明智光秀滅亡
清須会議。織田信忠の嫡男三法師が織田家の家督に決まる

12月　岐阜城の織田信孝が羽柴秀吉に攻められ、 三法師を秀吉に渡し降伏

1575
岩村城の戦い

5月　織田信忠が岩村城に出陣しこれを囲む(『信長公記』)

6月　佐久間信盛が武節城を攻略し、岩村城攻めに参加する(「野崎達三氏所蔵文書」)

10月　２３日と２６日に岩村城で戦闘があり、城方の部将多数が戦死(「開善寺過去帳」)

11月　勝頼が岩村城の後詰に失敗し、２１日に降伏・開城。信長は赦免の約束を反故にし、城将秋山虎繁などを岐阜の長良川河川で磔とし、城内の将兵を皆殺しにする(『信長公記』)

1579

2月　明智藤右衛門入道が定光寺に米を寄進(『定光寺祠堂帳』)

1582

2月　苗木の遠山友政が木曽義昌を調略。武田攻めのきっかけとなる

3月　織田信長が明智光秀らを率いて甲斐へ向かう途中、岩村城に3日間滞在勝頼滅亡の報を受けて信濃へ兵を進める

同月　武田攻めの論功行賞、岩村城は団忠正、金山城は森長利（蘭丸）に与えられる

6月　本能寺の変で、団忠正、森長利が戦死

同月　森長可が金山城に戻り、領内の米田城、上恵土城、大森城を攻め落とす

同月　清須会議の結果、美濃国は織田信孝の分国となり、東美濃の諸将も信孝に従う

11月　森長可が羽柴秀吉に通じ、加茂・武儀両郡への攻撃を始める

12月　森長可が東美濃三郎を分国とする

1590

1600

1583 4月

賤ケ岳の合戦

5月　織田信孝が自害

1584 3~11月

小牧・長久手の合戦

3月　森長可が尾張国羽黒で徳川軍に敗れる (羽黒の戦い)

4月　池田恒興・森長可などが戦死(長久手の戦い)

1590 7月

北条氏が豊臣秀吉に降伏
秀吉が天下統一達成

1592 3月

第1次朝鮮出兵始まる

1597 1月

第2次朝鮮出兵始まる

1598

8月　豊臣秀吉死去

1600 9月

関ヶ原の合戦

文禄　慶長

1583

1月　岐阜の織田信孝が再び挙兵し、東美濃諸将は信孝に従う
閏1月　延友佐渡守が織田信雄に従う
3月　明知利景が森長可降伏
5月　東美濃の諸将が徳川家康の許へ逃れる

1584

小牧長久手合戦・東美濃の戦い

3月　羽黒の戦いを受けて、東美濃の旧領主が徳川家康の命により森領へ攻め込む
このうち、延友佐渡守父子・明知一行は明知城を攻略
4月　延友佐渡守父子・明知一行が岩村城攻略
6月　小里光明が小里城攻略
10月　石川数正を主将とする徳川勢と羽柴勢が高山表(土岐市)で戦い、遠山半左衛門尉(延友佐渡守の子)が戦死
11月　秀吉と家康が和睦。東美濃三郡は森領とされ、旧領主は再び退去。

1600

1月　金山の森忠政が川中島へ転封。岩村に田村直昌が4万石。苗木に川尻直次が1万石で入封
9月　関ヶ原の合戦で直昌、直次は西軍となり改易。岩村には大給松平家乗が2万石で入封したほか、苗木・明知の遠山氏、小里の小里氏が旧領を回復
10月　岩村城明け渡し。田丸直昌は関ヶ原合戦後も岩村城に籠城したが、10月10日に開城。苗木の遠山友政・山村氏・ 千村氏が岩村城請け取りにあたる。（苗木遠山文書『岩村城請取次第』）